

## 第1章 背景と目的

近年わが国では、環境意識の社会的高揚と循環型社会基本計画を初めとする行政の取り組みなどにより、製造業において環境に配慮した製品づくりが積極的に進められるようになってきている。今後も、二酸化炭素削減の必要性増大や天然資源の逼迫等により、ますます環境配慮設計の重要性が高まるものと考えられる。

しかしながら、現在の環境配慮設計の現状としては、省エネ設計や3R（リデュース、リユース、リサイクル）設計、有害物質使用量の削減といった個々の環境側面を捉えたものが多く、製品ライフサイクルの最適化という視点では未だ十分な検討が行われているとはいえない状況ではないだろうか。

そこで、日本国内における環境配慮設計の現状把握と情報共有化及び今後の環境配慮設計の推進向上施策検討の資料とするため、本調査を行うこととなった。

関連調査としては、平成16年度の調査「循環ネットワーク整備事業—環境配慮情報提供の現状調査」（経済産業省、平成17年3月）がある。この調査では、環境報告書、雑誌、新聞記事での環境配慮情報提供に関するキーワードの使用状況およびその文脈を調査しており、環境報告書では「環境効率」「環境配慮型製品」「環境配慮製品」「環境配慮設計」の使用頻度が高く、電気機器、精密機器・その他製造、化学・医薬品などのグローバル化が進んでいる業種での使用頻度が高いとされている。また、環境報告書においては、エンドユーザが一般消費者で環境の取り組みが企業評価や企業価値につながると考えている企業での「環境配慮型製品」「環境配慮製品」の使用が多いとされている。また、環境専門誌のキーワード検索により、キーワードの引用頻度はその専門誌の専門領域に依存すること、特集記事の有無もキーワードの使用に大きく影響するとされている。この調査では、環境報告書での環境配慮設計などのキーワードの引用が無い業種や企業があること、環境専門誌での環境配慮設計等の概念や指標の普及、浸透がまだ十分なレベルにあるとはいえないと結論付けられている。課題として環境報告書でのキーワードの使用の無い業種での取り組みの調査やサンプル数を増やしての調査などがあげられている。

本調査では、昨年度の課題も踏まえ、以下の方法で環境配慮設計に関するキーワードの調査を行った。

- 環境配慮設計に関するキーワードの検索（環境報告書、新聞、雑誌）
- 環境配慮設計に関するキーワードの普及状況と実践に関するヒアリング
- 環境配慮設計のプロセスの実態に関するヒアリング

環境報告書の調査では、昨年度の結果を踏まえ、関連キーワードの使用状況との比較、2004年度と2005年度の環境報告書でのキーワード使用の状況の変化などを探った。また、新聞記事でのキーワード検索によって、一般に接する機会の多いメディアでのキーワードの使用状況を探った。環境配慮設計に関するキーワードの普及状況と実践に関するヒアリングでは、環境報告書でのキーワード使用の少ない業種も調査範囲として、環境報告書の記述のみにとらわれない環境配慮設計や環境一般への取り組みに関してのキーワードの認知度や実践についての聞き取りを行った。また、環境配慮設計の先進的な取り組みや成功事例として、電気・電子機器、自動車などの企業における環境配慮設計の実際のプロセスについてのヒアリングも行った。

なお、本報告書中の調査結果における業種は、日本標準産業分類の大分類を参考にし、中分類については各調査結果に合わせた分類としている。